

氏名 山 田 大 介

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博 甲 第 877 号

学 位 授 与 の 日 付 平 成 2 年 9 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 医 学 研 究 科 外 科 系 泌 尿 器 科 学 専 攻

(学位規則第5条第1項該当)

学 位 論 文 題 目 細 菌 性 前 立 腺 炎 の 発 症 に 関 す る 臨 床 細 菌 学 的 研 究

I 臨 床 分 離 菌 分 布 と 前 立 腺 液 中 細 菌 特 異 抗 体 価

II 前 立 腺 炎 由 来 *E. coli* の 病 原 性 因 子

論 文 審 査 委 員 教 授 金 政 泰 弘 教 授 新 居 志 郎 教 授 荒 田 次 郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

前立腺炎患者由来菌に対する前立腺圧出液 (expressed prostatic secretion: EPS) 中の特異抗体価を測定する事によりその病原性について検討した。

細菌性前立腺炎の主要起炎菌である *E. coli* 等のグラム陰性菌 (GNR) に対しては明らかな抗体価の上昇を認めたが, *S. epidermidis* を始めとするグラム陽性菌 (GPC) に対する抗体価の上昇は認められず, GPC の病原的意義は低いものと考えられた。また GNR 分離例においても抗体価の上昇を認めない症例が存在し, EPS 中の細菌特異抗体価の測定は臨床経過のモニタリングだけでなく起炎菌の決定に有用であると考えられた (I)。

急性細菌性前立腺炎由来 *E. coli* 59株の細菌学的性状を検討した。血清型は0-4, 6, 18, 22等に偏っており, ヘモリジン産生能を有する株が64%と過半数を占めた。

前立腺炎に特異的な線毛は必ずしも明らかではなかったが, 81%の株が保有する type 1 線毛を介しての前立腺腺腔上皮への特異的付着が認められ, *E. coli* の前立腺への病原性は type 1 線毛を中心に発現されているものと考えられた (II)。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は, 細菌性前立腺炎の発症に関する研究で, 前立腺圧出液中の特異抗体価を測定することにより主としてグラム陰性菌が起因菌であることを決定づけ, 更にグラム陰性菌のうちの *E. coli* の前立腺への病原性は type 1 線毛を中心に発現されることを明らかにした。臨床的に極めて重要な知見であり価値ある業績と認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。